

「異常気象」という言葉が多くの人に使われるようになっても、今年ほど極端な天気が続く年は少ないでしょう。

「異常気象」という言葉が多くの人に使われるようになっても、今年ほど極端な天気が続く年は少ないでしょう。”稀に起こる”が、当たり前になってしまう日々の繰り返し。6月から始まった酷暑、ゲリラ豪雨による土砂崩れや洪水、暑さによる熱中症の発生での多くの脱水症による死亡例、先月末には、中一日置くだけで、立て続けに二つの台風が襲ってくるなんてこと。それも南の海上で台風になってから、西側を廻ること無く直接日本を目指して北上する等という経路を辿って襲ってくるのです。本当に此れまでの常識が通用しなくなって来ている感があります。元を正せば、地球温暖化現象とか、とすると、全て私達が創りあげた結果以外の何物でもないとの結論に行き着いてしまいます。早急に立て直さなければならないことでしょう。



後継者が育たない事例がごろごろと現れております。スイカの一大産地が無くなるかもしれません。早急 hands を打たないと、手遅れになってしまいます。大玉スイカから、小玉スイカへと、時代の変遷で片付けてはならないと思います。口に含んだ時のあのシャキッとした感触を無くしてはいけないし、忘れても欲しく無いのです。

大きな大きなうれしいニュース、68時間ぶりに生還した2歳の藤本理稀ちゃんが、九州のボランティアに助け出されたことです。近場の沢水は飲んでいたのでしょうが、食べ物を口に運んではいなかったと考えると、素晴らしいとしか言えません。奇跡の生還という言葉がぴったりの出来事でした。そういえば、カンボジアで洞窟に入った13人のサッカー少年達の生還も素晴らしい事でしたよね。あの時は世界中の捜索隊が知恵を働かせたということもあったのでしょけど・・・。



ときめきを覚える出来事をうまく使って毎日を過ごす、あっという間に時が過ぎてしまったという思いは無くなるのだそうです。物事には、ときめきを持って対応し、有意義な時間を積み重ねましょう。

暑い日がつづきます。体に気をつけて下さいよ!!

平成 30 年 9 月 7 日 院長 清治 邦夫